

【研究報告（令和3年度）】

チーム③ 中高年期の社会活動支援・活力ある高齢者の研究チーム（③-2）  
産学官民連携による高齢者活動広域的サポート事業の開発

馬場みちえ<sup>1)\*</sup>、上野珠未<sup>1)</sup>、岩永和代<sup>1)</sup>、大村由紀美<sup>1)</sup>、  
吉川千鶴子<sup>1)</sup>、牧香里<sup>1)</sup>、浦綾子<sup>1)</sup>、宗正みゆき<sup>1)</sup>  
1) 福岡大学医学部看護学科、\*) 責任者

要 旨

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ほぼ地域高齢者とのつながりは中止となった。少しでもつながることを目的に、協力機関(福岡市、福岡市社会福祉協議会、早良区社会福祉協議会)とともに、田隈校区住民、民生委員との連携しながら地域高齢者ケアサポートについて打ち合わせと1回のふれあいサロン参加をすることができた。コロナ禍に高齢者と安全につながるために、タブレットでアプリの開発をし、オンラインの試行を実施した。昨年から引き続き、災害時に可能な産学官民連携するためにアンケート調査を行い、報告することができた。今後新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなった後に、企業との連携協働、高齢者や民生委員、行政との連携協働を試み、何が求められ、何ができるか検討・評価していくことが重要である。

1. 緒 言

本研究では、2016年度より福岡大学ブランディング研究事業として、西部ガス・カスタマーサービス（株）と福岡市との産学官連携事業で、企業社員を対象にコミュニケーションスキル教育プログラムを開発した。それをもってこれまで高齢者サポートの支援を行ってきた。現在は、福奏プロジェクトとして、産学官連携事業に住民を巻き込んで事業を継続している。企業社員による福岡市早良区田隈校区の2か所の高齢者サロンにおいて高齢者ケアサポートも実施し、住民からも支持を得ることができてきた。

2020年から新型コロナウイルス（COVID19）感染症の蔓延により、2021年度も蔓延防止重点措置期間が続いた。地域の高齢者サロンは、新型コロナウイルス感染症が高齢者への影響が大きいこともあり、高齢者自身が地域の活動に参加しなくなった。


2021年度のコロナ禍でもできることとして、田隈校区の地域高齢者とのつながりを継続して

いくことを目標に活動したので報告する。

2. 方法

2021年度は新型コロナ（COVID19）による影響が生じ、人が集まることができなくなったが、1) 企業社員による田隈校区の高齢者サロンへの活動をできる範囲で参加する。2) 企業社員と地域高齢者への防災意識に関する調査を行い、その結果を報告する。3) コロナ禍において、タブレットで「離れてつながる」アプリを開発・使用し、オンラインで地域とのつながりを深める活動を試行した。

表1 2021年度研究スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月～3月
西部ガス社員	企業社員へのケアに関する表彰		打ち合わせ		高齢者サポート振り返り 高齢者ふれあいサロンの参加				 高齢者 オンライン サポート実 施
防災	打ち合わせ				アンケート実施・報告				
オンライン	田隈校区との打ち合わせ				研修 試験的なトライ				
連携機関	福岡市高齢社会部、保健福祉センター、福岡市社会福祉協議会、民生委員、自治会協議会、サロン代表者、住民、検員代表、西部ガス・CS、福大の打ち合わせ								

### 3. 研究結果

#### 1) 田隈校区高齢者ふれあいサロン参加

コロナ禍が少し落ち着いた10月に、企業社員とともに高齢者ふれあいサロンに参加し、信頼関係の構築を行った。企業社員による地域の独居高齢者や虚弱高齢者への見守りや声掛け、社会参加促進などの実施を打ち合わせた。

#### 2) 企業社員や地域高齢者への防災に関する調査・報告

企業社員（6月）および地域高齢者（10月）に対して防災意識と災害自己効力感に関する調査を実施した。企業社員による防災に対する現状危機感が高く、自己効力感が高かった。なおかつ他者志向性が高くなっていた。地域高齢者は、現状危機感が高いものの、自己効力感が低く他者志向性も低いという結果であった。企業には調査結果の報告をしたが、地域高齢者にはコロナ禍の状況をふまえて報告予定である。

#### 3) 地域高齢者のオンライン試行

コロナ禍で孤立した虚弱高齢者をタブレットでつなぐことを目的に「離れてつながる」アプリを社会福祉協議会と開発することができた。ふれあいサロンに参加している高齢者と独居の虚弱高齢者をタブレットでつなぐ試行を実施した。今後、企業社員も共同できるようシステム化していく予定である。

現在、6人の元気高齢者と4人の独居虚弱高齢者に対してタブレットを貸し出し、わかりやすい仕様書を作成して、ふれあいサロン時に試行している。スマートフォン使用経験のある高齢者はタブレット操作がスムーズであった。電子機器の使用経験がない高齢者は、「この年齢でも意外にできる」と自信が得られ、「知った顔を画面通して視聴できるのは楽しい」「興味深い」などの声がきかれている。

### 4. 考察

2020年から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延によって接触が困難であり、高齢者も自粛によって閉じこもりとなっている。ふれあいサロンに産

学官で参加したのは、1回のみであった。しかし、産学官連携での高齢者サポートの意義については、お互いに強く認識でき、今後も協力することが確認できた。

防災に関する調査では、企業社員による防災への意識は高く、他者への志向性が高いことと、地域高齢者は企業社員に防災や災害支援のニーズがあるという結果から、地域での高齢者サポートは今後の期待が高まると考える。

タブレットでの検証は、企業社員とのつながりまで至っていないが、支援が必要な高齢者が使用できるよう、試行を重ねていきたい。

今後新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなった後に企業との連携協働、高齢者や民生委員との連携協働を試み、何が求められ、何ができるか検討・評価することが重要である。

産学官民が連携しながら企業社員が地域になじみ、信頼関係を築くことで高齢者の社会参加を促すサポートへとつながっていくと考えられ、今後の展開が期待されている。

### 5. 学会報告

1. 大村由紀美、宗正みゆき、吉川千鶴子、牧香里、上野珠未、隈本寛子、岩永和代、浦綾子、馬場みちえ. 産学官連携事業からみえてきた地域高齢住民が考える災害発生時の気付きと備え. 日本看護研究学会学術集会. 2021年8月

2. 馬場みちえ、吉川千鶴子、宗正みゆき、岩永和代、浦綾子、牧香里、上野珠未、大村由紀美、隈本寛子. 産学官民連携からみた企業社員による地域高齢者ケアサポートシステムの構築（第5期）. 第41回日本看護科学学会交流集会. 2021.12月

3. Tamami Ueno, Kazuyo Iwanaga, Yukimi Oomura, Michie Baba, Chizuko Yoshikawa, Kaori Maki, Ayako Ura, Miyuki Munemasa. The possibility of using a company's employees as a resource to assist the local elderly in disasters. EAFONS 2022

### 6. 知的財産権の出願・登録状況 なし